人権特集　12月4日～10日は人権週間です

お互いに尊重しあい、ともに生きる社会をめざして

最優秀賞
「横浜市長賞」

ぼくの夢見る未来

横浜市立保土ケ谷中学校３年　太田（おおた） 圭胡（けいご）さん

第40回全国中学生人権作文コンテスト横浜市大会に、55,079作品の応募がありました。
その中から、最優秀賞「横浜市長賞」を受賞した作品を紹介します。

中学1年の時に、水泳部の部活中の事故で大怪我をしました。そして突然障害者になりました。脊髄損傷（せきずいそんしょう）という大怪我で手術をし、リハビリをし、北海道で再生医療を受けました。でもぼくの右手と右足は今までの様に動きません。それでも周りの人の支えのおかげで、また水泳をできるまでに回復しました。手術してくれた病院の先生や看護師さん、北海道の先生、リハビリの先生に助けてもらいました。今まで障害について、考えた事もなければ、自分が障害者になるなんて少しも考えた事もありませんでした。障害をもってからリハビリの時も診察の時も、ぼくより重い障害がある人に何人も出会いました。みんな挫（くじ）けず、辛いリハビリや治療をがんばっていました。前とは違う体になってしまった自分を認める事ができないでいるぼくにとって、とっても励みになりました。「前の自分だったら」とか「手や足が動けば」とかマイナスに考える事しかできなかった自分をはずかしく思いました。中学の友達とは違う体かもしれない、できなくなった事や苦手になってしまった事もマイナスに考える事もなく前に進んでいこうと思い始めました。同じパラ水泳のチームの人達の中には、知的障害の人や下半身が麻ひしている人、色々な障害がある人達が前向きに負けずにがんばっています。その姿に影響を受けて、また水泳を一からがんばろうと思いました。そして、練習を重ねていくうちに横浜市の水泳大会にチームのメンバーとして出場することになりました。今までの大会よりも緊張して、何も考えられませんでした。それでも、今までに助けてくれた人のためにがんばろうと思って泳ぎました。自由形の50メートルに出場して、ぼくはただがむしゃらに泳ぎました。泳ぎ終わった後、全力を出し切ってからっぽのぼくの耳に、「4コースを泳いだ太田圭胡さんが今大会の新記録を樹立しました」というアナウンスと、大きな拍手が聞こえてきました。新記録を出したという驚きと嬉しさを感じました。そして、金メダルと賞状をもらいました。今までの自分自身の努力がむくわれた感じがして、すごく達成感がありました。金メダルが取れたことを入院中に心配してくれた親や友達に伝えたところ、すっごく喜んでくれました。

ぼくが伝えたいことは、性別や、障害があるかないか、そういうことは関係なしに、みんながみんな、必ず来る明日のためにがんばって、努力しているということです。人それぞれ違いは必ずあると思いますが、そのかすかな違いを面白おかしくバカにしたり差別したりするのではなく、助け合ってみんなで生きていく、そういう社会になってほしいと思っています。どんなに辛くても、どんなに苦しくてもぼくは入院中友達や家族に心配されたことを何年たっても忘れません。みんなが忘れていてもぼくは覚えています。希望を抱いて生きていこうと思います。

ぼくの夢見る未来は、差別がなくどんな人も笑って過ごせる未来です。障害や性別関係なくみんなが笑顔でいられる社会です。辛い事があっても助け合って乗り越えていけるように、必ず、ぼくがみんなを笑顔にします。それがぼくが夢見る未来です。これから先も差別を受けたり、みんなと違うことをしていくと思いますが、挫（くじ）けずにがんばっていきたいです。自分より重い障害がある人をたくさん見てきました。自分が今何をすべきか、何のために生きているのかを考え、今まで応援してくれた人のためにいつか、何年先であってもパラリンピックに出て北海道の方々、同級生のみんな、先生方や家族に必ず恩返しをします。それがぼくにできるただ一つの事だと思っています。

人権よこはま webキャンペーン2021

12月の「人権月間」に合わせて、人権よこはまwebキャンペーン2021を開催します。ウェブページでは、人権について「いつでも・誰でも・気軽に」触れ、楽しく学べる話題を数多く提供します。

また、キャンペーン期間中、人権啓発講演会を、オンラインで配信します。講師には、マンガの研究で知られる吉村和真（よしむらかずま）教授（京都精華大学）を招き、幅広い世代に馴染み深いマンガを題材に、知らず知らずのうちに刷り込まれるイメージや価値観に気づくきっかけとなるようなお話をしていただきます。

ほかにも、クイズやスポーツ選手のメッセージなど、内容は盛りだくさんです。キャンペーンに参加して、人権について一緒に考えてみましょう。

京都精華大学
吉村和真教授

【開催期間】12月10日(金)～2022年1月31日(月)（予定）
※詳しくはウェブページで確認してください。
【問合せ】市民局人権課　☎671-2379 fax681-5453

人権よこはまwebキャンペーン　検索

人権啓発ポスターが完成しました

平成22年度から毎年、横浜市内の専門学校生からデザインを募り、人権啓発ポスターを作成しています。『大切にしよう 人を思う心』という標語には、誰もが自分らしく生きるために、互いを尊重して思いやる気持ちが大切であるという思いを込めています。「人それぞれの違いを認め、全ての人が互いの人権を尊重しあうことが心豊かな社会につながる」ということを、ポスターを通じて伝えていきます。

これまでの人権啓発ポスターはウェブページで閲覧できますので、ぜひアクセスしてください。

令和3年度ポスターデザイン
横浜デジタルアーツ専門学校
楠本愛美さん

横浜市 人権啓発ポスター　検索

【問合せ】市民局人権課　☎671-2379 fax681-5453

外国人との多文化共生に向けて

横浜市の外国人人口は約10万人で、政令指定都市の中では２番目の多さです。身近な地域や学校、職場などで、外国人や、外国にルーツを持つ人と関わる機会も増えてきているのではないでしょうか。

横浜市では、日本人にとっても外国人にとっても暮らしやすいまちづくりを目指しています。言葉や文化の違いがあっても、みんな同じ地域で暮らす生活者であり、同じ住民です。

もし、自分が外国で暮らすことになった場合、どんな気持ちで生活し、どのように接してもらえると嬉しいか考えてみませんか。

「言葉が通じないかもしれない」「なんとなく声をかけづらい」と見えない壁を作らずに、少しずつでも声をかけてみましょう。誰もが暮らしやすい多文化共生社会に向けて相互理解を深めていきましょう。

【問合せ】国際局政策総務課　☎671-3826 fax664-7145

自殺・自死遺族について

身近な人や大切な人を自殺によって亡くした遺族は「殺」という文字に傷つくことがあります。そのため、遺族は「自殺」ではなく「自死」という言葉を使います。そのような遺族の心情に配慮して、自殺で身近な人を亡くされた方を「自死遺族」と呼んでいます。

多くの自殺は、個人の意思や選択の結果ではなく「心理的に追い込まれた末の死」と言われています。しかし、自殺に対する社会のまなざしの中には、「弱いから逃げた」「命を粗末にした」という誤解や偏見が根強くあり、遺族が「自死で亡くなりました」とはとても言いにくい状況です。

自責の念や周囲からの偏見のため、自らの思いを長く心の中に閉じ込めている人もいます。自殺対策のための知識や遺族の心情への理解を深めることで、死のあり方によって差別されることのない社会、誰もが自殺に追い込まれない社会作りが求められます。

〔参考文献〕「自死・自殺」の表現に関するガイドライン（NPO法人全国自死遺族総合支援センター）

横浜市自殺対策サイト　検索

【問合せ】健康福祉局こころの健康相談センター
☎662-3558 fax662-3525

職業差別をなくすために、一人ひとりにできること

世の中に存在するあらゆる仕事は社会に必要とされており、どの仕事にも等しく価値があります。にもかかわらず、思い込みなどによって職業に優劣をつけて考えたり、特定の職業の人に対して負の感情を持ったり、職業によって人柄までも判断したりしてしまうことはないでしょうか。その考え方は、もしかすると偏った価値観によるものかもしれません。

ある仕事について否定的な気持ちを持っていたり、仕事の内容や必要性をよく知らなかったりすると、何気ない言動によって、その職業に就いている人はもとより、家族などの周りの人までも傷つけてしまう可能性があります。自分の考え方が人を傷つけてしまう可能性があると気付いた場合には、どうして自分はそのように考えるのか、その考え方や価値観は自分にとって必要なものなのか、自分の心に向き合うことが大切です。

そもそも職業に関係なく全ての人に等しく価値があり、自分らしく幸せに生きる権利があります。お互いの人権を尊重し合える社会にするために、一人ひとりが自分の持つ価値観について考えてみることから始めてみませんか。

【問合せ】市民局人権課　☎671-2379 fax681-5453

身体障害者補助犬と共に暮らす社会

身体障害者補助犬（盲導犬・介助犬・聴導犬）は、目や手足、耳の不自由な人の外出や生活をサポートするパートナーです。補助犬は、訓練と認定を受け、交通機関や飲食店、公共施設、宿泊施設、病院などへ原則一緒に入ることができます。

しかし、補助犬にはできないこともあります。盲導犬は自動的に目的地まで連れて行ってはくれません。車いすで店の商品に手が届かない時に介助犬が代わりに取ることはできませんし、駅で緊急のアナウンスがあった時に聴導犬が内容を伝えることはできません。

補助犬を連れている人が困っている時や、危険が迫っている時などは、周囲の人の声かけとサポートが必要です。

コロナ禍の今、街で人に近づいたり話したりするのは勇気がいることですが、多くの人が先の見えない不安を抱えるこの時代だからこそ、人に寄り添う優しさと強さを持って共に暮らす社会をつくっていきましょう。

【問合せ】健康福祉局障害自立支援課　☎671-3891 fax671-3566

感染症の正しい知識と理解を

感染症は誰もがかかりうる病気です。それにも関わらず、誤った情報や思い込みにより偏見を持つことで、差別が生じることが少なくありません。例えば、エイズやハンセン病は感染力が弱く日常的な接触ではうつりませんが、間違った考えが広がり偏見が大きくなりました。私たち一人ひとりが感染症の正しい知識を持ち理解を深めることで、偏見や差別をなくしていきましょう。

HIV エイズ

HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染することで免疫力が低下し、健康な状態ならば防ぐことのできる感染症や悪性腫瘍を発病することをエイズといいます。服薬によりHIVをコントロールすることで、感染前と同じ生活が送れます。

レッドリボンはHIV/AIDSと共に生きる人々に偏見をもたず、差別しないというメッセージです。

ハンセン病

らい菌により、皮膚や神経が侵される感染症です。早期治療により治癒します。

【問合せ】健康福祉局健康安全課　☎671-2729 fax664-7296